

2. 東日本大震災等復興支援活動の紹介

龍谷大学では、2011年3月11日の東日本大震災発災以降、被災地でのボランティア活動や学内での啓発活動等、様々な取り組みを実施してまいりました。

2019年度も「見て、聴いて、感じる」をテーマに2回ボランティアバスを運行して活動しました。活動後は必ず学内で活動報告会を開催し、ボランティアを通じた気づきや経験を学内で共有しながら啓発する努力を継続しています。そうした学内での啓発活動の成果もあり、雄勝町で活動するボランティア募集の参加申込者数が定員を下回ることはありません。説明会への参加は185名、応募は85名ありました。宿泊などの関係上、定員を増やすことができないため、苦渋の選択で選考を実施し、各回30名ずつ、計60名を選抜しました。キャンセル待ちをする学生も多く、希望する学生全員に参加してもらえないのが非常に残念でなりません。参加者募集説明会は、深草・瀬田・大宮の全キャンパスで開催し、学生・教職員に対してコーディネーターが活動趣旨・リスクを十分に理解した上で参加するように呼びかけています。

参加が確定した後は、毎回、別途説明会を実施しています。説明会では、提出書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）と参加費（2万円）の受領後、確定しているスケジュールの詳細説明と活動に関する質疑応答を行い、最後に、全学部を参加対象にしたプログラムのため、初対面の学生が多いことを考慮し、参加者同士の自己紹介等をおこなっています。

事業名	第1回 東日本大震災 復興支援ボランティア活動
実施日/場所	2019年8月12日（月）～8月16日（金） 宮城県石巻市雄勝町
実施主体/運営	龍谷大学/ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	33名（学生30名、引率3名）
参加者名	富上弥生（政策4） 松岡俊希（法学3） 森谷祐生（法学3） 頼田翔平（理工3） 朝倉勇人（社会3） 大橋寛海（社会3） 川瀬貴愛（社会3） 辻 翔太（社会3） 横谷紅葉（社会3） 川村有希（政策3） 佐々木陽生（文学2） 田中紗姫乃（文学2） 福沢里保（文学2） 中井康陽（経済2） 赤崎 諒（経営2） 三品映太（経営2） 井上雄健（社会2） 下口 恵（社会2） 春木大輝（社会2） 松本萌花（社会2） 齋藤一紗（文学1） 浅井美羽（経営1） 恒藤龍太郎（社会1） 川野航士朗（政策1） 鈴木舞菜（国際1） 丸山桃佳（国際1） 山原ひなの（国際1） 田中里奈（農学1） 谷 優菜（農学1） 米田花梨（短大1） 引率教員：石原凌河 副センター長 引率コーディネーター：竹田純子、國實紗登美

1. 概要

第1回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝湾灯籠流し」の実施・運営の手伝いで、具体的な作業としては、地元の方が用意してくれたパーツを灯籠に組み立てることでした。地元の方に教わりながら約1000基を作製しましたが、台風10号の影響で灯籠流しは延期となってしまいました。

今年はそれ以外に、雄勝中央団地自治会が、移転後初の納涼祭を開催することになり、納涼祭のお手伝い兼参加者として、地元の皆様方と

交流させていただきました。

ここ数年は、防災教育にも力を入れており、今年度は、毎年受講している一般社団法人 雄勝花物語による防災教育の受講の他、公益社団法人3.11みらいサポートの方に石巻市街地を案内していただき、大川伝承の会の鈴木氏にも、大川小学校を案内していただきました。

また、いつも宿泊していた雄勝町の宿が、高齢化のため宿泊が不可能になったことを受け、初めて女川町に宿泊し、女川町の観光ボランティアの方から、女川町内の被災状況や復興に

ついてお話を聴きました。

活動の終了後は、必ずふりかえりの時間を設け、それぞれの気づきや学びを共有する時間を作りました。

2. 活動スケジュール

日時	時間	スケジュール
8/12 (月)	8:00	深草キャンパス発
	8:15	京都駅八条口団体バス乗り場発
	22:10	石巻グランドホテル着
8/13 (火)	9:00	石巻市街地の見学
	11:00	大川小学校を見学
	13:30	旧おがつ店こ屋街で灯笼づくり作業
	19:00	ふりかえり
8/14 (水)	9:00	旧おがつ店こ屋街で灯笼づくり作業の続き
		作業開始
	17:00	浜供養
	18:00	中央団地の皆さんと納涼祭
	20:30	納涼祭終了
8/15 (木)	9:00	納涼祭の後片付け
	10:00	雄勝ローズファクトリーガーデンにて防災教育
	14:30	女川町内を見学
	16:00	ふりかえり
	20:30	上品の郷を立ち、京都へ出発
8/16 (金)	9:00	京都駅八条口団体バス乗り場着
	9:15	深草キャンパス着

○8/12 (月) 【1日目】

- ・8時に深草キャンパスを出発し、バスの中でチーム作りのための自己紹介ワークや活動中の諸注意についての説明を行う

○8/13 (火) 【2日目】

- ・8時30分にホテルを出発し、公益社団法人3.11みらいサポートの方の案内で石巻市内を視察
- ・大川伝承の会の鈴木氏から大川小学校を案内していただく
- ・雄勝硯生産販売協同組合の工房前で灯笼作りの作業を地元の方に教わりながら実施
- ・女川町の宿に移動。各自で夕食
- ・女川フューチャーセンターでふりかえり

○8/14 (水) 【3日目】

- ・午前中は雄勝硯生産販売協同組合の工房前で、前日の作業の続きを実施
- ・浜供養に参列
- ・雄勝湾灯笼流しが中止決定
- ・中央団地の地元の皆さんと納涼祭

○8/15 (木) 【4日目】

- ・納涼祭の後片づけ
- ・一般社団法人 雄勝花物語が運営している雄勝ローズファクトリーガーデンで防災教育を受講
- ・女川町内を女川観光協会のガイドさんの案内で視察

- ・ふりかえり

○8/16 (金) 【5日目】

- ・7時に起床し、朝食休憩の後、9時過ぎに京都駅と深草キャンパスにて解散



3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
- ・今回参加したのは、三回目であったが同じ活動、同じ話を聞いていても新たな発見、気づきがありとても充実した時間でした。今まで雄勝町を中心として活動していましたが、今回は女川での活動も追加されたことにより復興に関する考え方や町づくりの違いなどが比較出来たので、さらに考えが深まったと考えています。バスの運転手の方も含め、会う人会う人に、「よく来てくれた」とか、「龍大はいつも来てくれる」などのことばをよくかけていただきました。私たちのことを快く迎えてくださったことは本当に嬉しかったです。
- ・私は震災の怖さと、大切な人に想いを思った時にすぐ伝える大切さを学びました。参加する前はテレビで、「10mの津波が来た」「ビル3階分の高さ」と言われても全く予想がつかないでした。しかし実際に見てみると予想以上に高く、これが目の前まで来た恐怖なんて計り知れないものだと感じました。電信柱などにも津波到達点と書かれてあり、町に今でも残る傷跡のようなものを感じました。また、徳水さんのお話の中で垂直避難という言葉を知り、ただ海から遠くに逃げるのは意味がないということを知った時は本当に衝撃的でしたし、これから実際に自分の身に津波が来ると分かった時には、次に自分の起こすべき行動を学びました。

4. コーディネーター所感

2013年から参加している「雄勝湾灯籠流し」は、今回初めて台風の影響で中止になるなど、天候の影響を大きく受けました。台風の直撃は免れたため、復興支援ボランティア活動自体は、なんとか実施することが出来ましたが、常に不測の事態を想定しながらの活動でした。

今回、灯籠流しは残念な結果となりましたが、納涼祭を実施していただけたので、住民の皆様方とたくさん交流することが出来て、学生たちはそれぞれいろいろな話を聴かせてもらえたようです。

今年度の新しい試みとして、防災教育のボ

リュームを増やし、初めて女川町で宿泊し、女川町でも話を聴くことも実施しました。あまりに情報が多く、学生は混乱したかもしれません。学生たちは時間を重ねるごとに理解が進み、振り返りで語られる言葉もどんどん深くなりました。実際に足を運び、地元の方から学び、一緒に動き、話し、空気を感じる中でしか得られない学びがあります。これからもこの機会を大切にしたいと思っています。

〈報告者：竹田 純子

(深草キャンパス コーディネーター)〉

事業名	第2回東日本大震災 復興支援ボランティア活動
実施日/場所	2019年9月11日(水)～14日(土) 宮城県石巻市雄勝町
実施主体/運営	龍谷大学/ボランティア・NPO活動センター
参加人数	33名(学生30名、引率3名)
参加者名	富島奈々実(経営4) 萩森紀恵(経営4) 中尾明日香(政策4) 空谷亜也衣(政策4) 梶谷幸佑(文学3) 河合政明(文学3) 高島優菜(経済3) 清水優史(法学3) 小路万斗(法学3) 吉田 樹(法学3) 田辺海帆(社会3) 松田侑子(国際3) 竹村龍世(経済2) 本井玲渡(経済2) 吉田厚人(経済2) 河原田祐輝(理工2) 小東純也(理工2) 岸上莉子(国際2) 大屋晴太郎(農学2) 佐々木絢香(経済1) 水野広喜(経済1) 赤嶺咲希(経営1) 石井翔大(法学1) 島田侑真(社会1) 野神豪仁(社会1) 早藤涼花(社会1) 稲穂寛樹(国際1) 北田歩花(国際1) 辻元一貴(国際1) 羽原愛結(短大1) 引率教員：筒井のり子センター長 引率コーディネーター：竹田純子、國實紗登美

1. 概要

第2回復興支援ボランティアのメインの活動は、雄勝小中学校併設校で開催される「祖父母交流会」への参加でした。この祖父母交流会では、「OGATSU COMPANY」(雄勝小学校の「総合的な学習」の活動から生まれた「自分を元気に、みんなを元気に、まちを元気に」をテーマにする仮想会社)の“ほってえ皿づくり”を地域の皆様方、子ども達と一緒に行いました。給食交流会や午後からの授業(ほってえ皿作りの振り返り)にも参加しました。休憩時間には、グラウンドで小学生の子ども達と思いっきり外遊びを行いました。

他にも第1回の活動同様、公益社団法人3.11みらいサポートの方の案内で石巻市街地の見学、一般社団法人 雄勝花物語による防災教育の受

講とガーデンの整備(芝刈り、堆肥入れ)を行いました。大川伝承の会の佐藤氏に、大川小学校を案内していただくなど、災害を学ぶことにも多くの時間を費やしました。

活動の終了後は、必ずふりかえりの時間を設け、それぞれの気づきや学びを共有する時間を作りました。

2. 活動スケジュール

日時	時間	スケジュール
9/11(水)	8:00	深草キャンパス発
	8:15	京都駅八条口団体バス乗り場発
	22:10	石巻サンプラザホテル着
9/12(木)	8:30	石巻市街地の見学
	10:30	雄勝ローズファクトリーガーデンにて防災教育
	12:50	ガーデン整備
	15:30	ガーデンの整備終了
	16:00	大川小学校を見学
	20:00	ふりかえり

9/13 (金)	8:00	女川町のシーバルピアを車窓見学
	9:35	祖父母交流会開始
	12:25	交流給食会&子ども達との交流の時間
	13:40	子ども達と一緒にふりかえり
	15:00	子ども達と交流
	16:00	ふりかえり (学生のみ)
9/14 (土)	20:30	上品の郷を発ち、京都へ出発
	9:00	京都駅八条口着
	9:15	深草キャンパス着

○9/11 (水) 【1日目】

- ・8時に深草キャンパスを出発し、バスの中でチーム作りのための自己紹介ワークや活動中の諸注意についての説明を行う

○9/12 (木) 【2日目】

- ・8時30分にホテルを出発し、公益社団法人3.11みらいサポートの方の案内で石巻市内を視察
- ・10時30分に雄勝ローズファクトリーガーデンに到着。一般社団法人 雄勝花物語による雄勝ローズファクトリーガーデンで防災教育を受講
- ・ガーデンの芝刈り、堆肥入れ等のガーデン整備
- ・大川伝承の会の佐藤氏から大川小学を案内していただく
- ・華夕美で宿泊。夜にふりかえりを実施

○9/13 (金) 【3日目】

- ・女川町のシーバルピアを車窓見学
- ・雄勝小学校で祖父母交流会に参加
- ・子ども達と一緒に振り返り
- ・学生だけで全体のふりかえり
- ・雄勝病院跡地の慰霊公園に建立された慰霊碑「祈りの塔」を見学
- ・上品の郷で入浴・夕食を済ませ京都へ出発

○9/14 (土) 【4日目】

- ・7時に起床し、朝食休憩の後、9時過ぎに京都駅と深草キャンパスにて解散



3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
 - ・僕は、今回のボランティアで、震災のことに
ついて自分の頭で考えるという事を課題とし
参加した。

4日間を終え、聞き、学び、考え、想像を超える心の痛みを知った。2日目大川小学校を訪れた。学校の横に山があった。もしこの山を登っていれば助かっていたかもしれない。どれほど悔しい思いをしたか。今現在でも津波による行方不明の子どもがいる。見つからない子どもを探して、今日も搜索している。我が子がどこにいるかわからないことが、どれほど悲しいことか。今回のボランティアに参加する前から、震災・津波で家が壊され、流され、人々の行方もわからないという状況を知らなかったわけではない。しかし耳を塞いで考える事を遠ざけてしまっていた。あまりに心が痛すぎるからである。今回僕は、震災について、向き合うことが出来たように思う。

- ・今回のボランティアでは想像以上にたくさんのことを学ぶことができました。現地の人の優しさや行動力に触れ、自分に何が足りないのかをより深く知ることができました。雄勝の子供達は少人数にもかかわらず、とても元気で生き生きと活動しており、小学生なりにたくさんのことを考え、行動していることがわかりました。自分が小学生だった時を思い出し、当時の自分と比べてとても頼もしく、強く生きているような感じがしました。

4. コーディネーター所感

今回、初めて祖父母交流会に参加させていただきました。学生の力が発揮しやすい運動会に比べ、“ほってえ皿作り”でお役に立てることがあるのかと心配していましたが、子ども達や住民の皆様方と、共に笑ったり、話したり、交流しながら“ほってえ皿作り”を行うことが出来てホッとしました。昼食のお弁当が届かないハプニングがありましたが、このことがきっかけで給食を少し分けていただいたりして、逆に面白い思い出になったように感じています。午後からは授業に参加し、子ども達と一緒に“ほってえ皿作り”を振り返ったのですが、その際にカードを使用して、自分の気持ちを語るなどを

体験させていただき、そのユニークな学びに、学生たちはとても刺激されていたようです。

8月の活動よりも1日少なかったこともあり、学生からは「短すぎる」との意見もありましたが、天候にも恵まれ、予定していた活動をスムーズに行うことができました。地域の高齢者や子どもたちとの交流、防災についての学びなど、

とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。石巻市の市街地や雄勝町でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	東日本大震災 復興支援ボランティア活動報告会
実施日／場所	10月1日（火）17時30分～19時00分 和顔館1階 アクティビティホール【深草】 10月3日（木）17時30分～19時00分 6号館プレゼンテーション室【瀬田】
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	学生、教職員のべ90名

1. 概要

深草・瀬田のキャンパスで、以下の通り報告会を開催しました。

- ①竹田コーディネーターよりこれまでの復興支援活動や雄勝町についての説明
- ②第1回（8月の活動）の活動についての報告（ムービーの上映）
- ③第1回に参加した学生からの報告
- ④石原凌河副センター長からのお話（引率教員）
- ⑤第2回（9月の活動）の活動についての報告（ムービーの上映）
- ⑥第2回に参加した学生からの報告
- ⑦筒井のり子センター長からのお話（引率教員）
- ⑧質疑応答の時間

※活動の詳細については、各回の報告をご一読ください。



2. ボランティア活動に参加した学生の声

- ・今回、実際に被災地に行って、話を聴いて、いろいろ見ました。「今、若者の自殺とか問題になっているけど、今回、石巻でたくさん話を聴いて、知って、生きよう！生きないとダメだ！」と強く思いました。
- ・ボランティア終了後、家族とハザードマップを確認して防災について話し合いました。
- ・教員を目指しているが、学校は教育をする場所であるが、それよりもまず、子どもの命を守る場所でないといけない。子どもの命を守れる学校を作りたいし、子どもの命を守れる教員になりたいと思いました。



3. コーディネーター所感

今回は、報告会の時間を昼休みから夕方17時半からの開催に変更しました。参加者を集めるのは難しいかと思いましたが、十分な時間を

とって、学生の話に参加者に聴いてもらえるようにしたからです。参加者は、過年度に比較して少し減少しましたが、第1回と2回に参加した学生が同じ場所に行っても違う経験をしていることを聴き合うことが出来ました。また、学外や教職員の参加もあり、来場者から話してもらう時間も取れたので、より充実した報告会になったように感じています。

これからも報告会の実施の仕方に工夫を凝らしながら、活動に参加した学生達の声を届け、東日本大震災に関する関心の低下を防ぐ努力を続けたいと思います。

〈報告者：竹田 純子
(深草キャンパス コーディネーター)〉

事業名	東日本大震災追悼法要における報告とパネル展示
実施日	東日本大震災追悼法要：【深草】2020年3月4日（水）12時00分～13時00分 【瀬田】2020年3月6日（金）12時00分～13時00分 パネル展示：【深草・瀬田】2020年3月2日（月）～3月16日（月）
場所	【深草】顕真館及びロビー 【瀬田】樹心館及びロビー
発表者	朝倉勇人（社会3） 川村有希（政策3） 松田侑子（国際3）
実施主体／運営	龍谷大学／宗教部／ボランティア・NPO 活動センター

1. 経緯・目的

2011年3月11日に発生した東日本大震災では15,899人*の方々が亡くなられ、2,529人*の方々が行方不明となっております。地震と津波の被害、さらには福島第一原子力発電所事故により、9年を経過した現在においても約49,000人**の方々が避難生活を余儀なくされ、家族や友人の死や地域コミュニティの変容による孤独、放射能による健康不安等、悲しみ苦しみを抱えながら生活をされています。震災以降に震災関連死された方々も3,738人**にのぼります。本学では、これまでに、のべ700名近くの学生や教職員が、本学が主催する復興ボランティアに参加し交流するとともに、復興イベントを実施し、臨床宗教師の実習をおこなう等、被災者に寄り添った支援を続けてきました。また、建学の精神の実践として仏教SDGsの取り組みを展開し、持続可能な社会と地域のあり方を発信しているところです。

東日本大震災以降も国内外でたびたび甚大な震災が発生している現実を目のあたりにし、東日本大震災のみならず、地震や台風等、様々な自然災害等により、多くの方が亡くなられ、被害にあわれた方々がおられることを思わずにはおられません。

このたび、犠牲となられた方々をしのびつつ、すべての被災者および関係者の方々に改めてお

見舞いを申しあげ、一人ひとりの“復興”に寄り添うとともに、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」機縁として、東日本大震災追悼法要を勤修します。（*警察庁2019.12.10発表 **復興庁2019.12.27発表）

2. 概要

宗教部が勤修した法要の中で、東日本大震災復興支援ボランティア活動に参加した学生と、福島スタディツアーに参加した学生が「東日本大震災復興支援ボランティア」と「福島スタディツアー」で見た被災地の今と、活動を通じた気づきについて報告を行いました。

また、法要会場の入り口に2019年度の東日本大震災復興支援ボランティアと福島スタディツアーの活動報告のポスターの展示と、本学卒業生（文学部 '93年卒）でもある志麻克史氏の東日本大震災を語り継ぐために調査した調査報告を展示しました。

【東日本大震災追悼法要】

■大宮学舎

日時 2020年3月4日（水）9時～9時30分
場所 本館講堂
法要 勤行 讃仏偈
調声・講話 能仁 正顕 宗教部長

■深草学舎

日時 2020年3月4日（水）12時～13時
 場所 顕真館
 法要 勤行 讃仏偈
 調声 能仁正顕 宗教部長
 講話 入澤 崇 学長
 報告 朝倉勇人、川村有希、松田侑子

■瀬田学舎

日時 2020年3月6日（金）12時～13時
 場所 樹心館
 法要 勤行 讃仏偈
 調声・講話 杉岡孝紀 宗教部長代理
 報告 朝倉勇人、川村有希、松田侑子



3. コーディネーター所感

本学では、2012年度から毎年法要が勤修され、法要終了後には、復興支援ボランティアに参加した学生が活動報告をする機会をいただいています。

学生、教職員のみならず、卒業生も自発的に集って、一緒に震災の犠牲になった人を想い、想いを分かち合い、追悼する時間を持つことは、龍谷大学の大きな特徴であり、強味だと感じています。

法要で報告する学生は、この活動を通じて、何を感じ、出会い、気づき、悩んだのか、心がどんなふうに変化したのかを自分の言葉で語ります。彼らの真摯な想いが聴衆の胸に刺さり、次につながっていくのだと思っています。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）

事業名	2019年度 その他大規模災害に係るセンターの動きについて
-----	-------------------------------

1. 概要

2019年8月～10月に発生した台風によって起こった水害への対応を以下の通りまとめました。

まずは、センターとして被災状況やボランティアに関する情報収集に取組み、その後、センター長名でセンターホームページ、Facebook等のSNSを通じて、復興支援ボランティア活動を希望する学生・教職員に対し、センターが出来ること（活動に関する情報提供と活動の際に必要なグッズの貸出等）について呼び掛けました。

2. 活動概要

○9月3日（火）

- ・センター長名で、災害に関するメッセージをホームページ、フェイスブック等を通じて発信。併せて、ボランティアに関する情報提供

やグッズ貸出について呼び掛け開始

- ・活動についての情報提供として、相談に訪れた学生・教職員に対し「活動情報の探し方」「安全に活動するために必要な知識」「ボランティア保険」等についての情報をまとめた「災害ボランティアに参加する前に知っておいてほしいこと」を作成し、活動希望者には個別レクチャーを実施したうえで配布できる体制を整えました。
 - ・活動に必要な鉄板入りの長靴やヘルメット、ゴーグルなどの貸出、防塵マスクの配布の開始
 - ・ボランティア保険の加入手続きも実施
- 10月15日（火）
- ・再び、ホームページ、フェイスブック等で情報提供やグッズ貸出について呼び掛け
- 10月23日（水）
- ・京都市社会福祉協議会との「大学のまち京都

災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」に基づいて、京都市災害ボランティアセンターが実施する10月27日（日）～29日（火）の長野市でのボランティアの緊急募集に協力

○11月5日（火）

- ・京都市災害ボランティアセンターが、実施する11月18日（月）～20日（水）の長野市でのボランティアの緊急募集に協力

○12月4日（水）

- ・龍谷祭で学生スタッフが取り組んだ「令和元年台風19号災害募金」（学生スタッフのブース内のみで実施）と模擬店収益金の一部をあわせた¥95,062円を京都府共同募金会を通じて、中央共同募金会に義援金として寄付



●令和元年台風災害ボランティアについての相談

2019年9月～2020年1月の相談件数

	1回	2回	3回	4回	合計
文学	1	1		5	7
経済	1	1		3	5
経営					0
法学			2		2
理工					0
社会	2			1	3
政策	6	11	6		23
国際					0
農学					0
短大					0
合計	10	13	8	9	40

2019年度令和元年台風に関わる水害ボランティアについての月別相談者数

9月	深草		瀬田	
	相談者数	内容	相談者数	内容
9月	4	武雄市でV活動 4人	0	
10月	4	台風19号V保健手続き、用具貸し出し3人、台風19号V相談1人	1	長野水害V相談 1人
11月	24	長野水害V用具貸し出し23人 台風19号V相談 1人	1	長野水害V保険加入、用具貸し出し 1人
12月	2	台風19号V相談2人	0	
1月	4	長野水害V用具貸し出し4人	0	
計	38		2	
総合計	40人			

3. コーディネーター所感

夏休みから立て続けに大規模な台風が発生し、日本各地に大きな被害を残しました。

被災状況や災害ボランティアについての情報収集や、学生・教職員への情報提供の準備は比較的迅速にできたように感じています。しかし、夏休み終了後は学校行事が続く上に、どの被災地も関西からは遠く、自力で向かうには厳しい場所であったためか、通常に比べ、学生の反応は鈍いように感じました。

移動手段を持たない学生や活動初心者の学生に対しては、参加しやすく、比較的安全も担保できる活動として、社会福祉協議会等が実施するボランティアバスなどを中心に紹介しましたが、活動日のタイミングに合わない場合が多く、相談に来た学生となかなかつなげることが出来ませんでした。把握している社協のボランティアバスで活動した学生・教職員は5名でした。

自力で向かおうとした学生もいましたが、受け入れ側の団体と活動日程が合い辛く、活動につなげるのが難しかったです。

反対に受け入れ先も移動手段も決まっているからと悪天候の中、被災地に向かおうとする学生もおり、安全喚起はより一層気を付けなければならぬと痛感しました。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉